

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

ふるさと納税の法規制が6月からスタート

ふるさと納税制度は、任意の自治体に寄附をすると、寄附金額から2,000円を超える額を所得税と住民税から控除され、寄附者の税負担が軽くなるというもの。さらに返礼品が獲得できるとして人気を集めてきた。しかし、2019年度税制改革大綱で新たなルールが決められた。これを機に寄附金の使い道にも注目してみると、自治体の重点的に進めている取り組みを知ることができる。

制度開始から約10年を迎えるふるさと納税制度。自分の生まれ育った自治体や応援したい自治体に寄附ができ、寄附金額は税金から控除・還付されるため、自己負担が軽減される。さらに魅力あふれる特産品などの返礼品が送付されるとあって、この制度の利用者は年々増加をみせている。



一方で過熱する返礼品競争やトラブルが問題になり、自治体間による「寄附競争奪戦」に歯止めをかける目的で、今年6月に制度が改正となる。新たな規制ルールは「返礼品の額は寄附額の3割以下」、「返礼品は地場産品に限る」というもので、この基準を満たさない自治体に寄附しても税金控除の対象とならない。

箕面市では平成21年度より、「みんなの箕面の緑の寄附金」の名称でふるさと納税をスタート。現在、山麓部などの緑地、樹木及び樹林の保全や、箕面山の自然保護のための「緑豊かな自然環境・良好な住環境の保全」、乳幼児の医療費助成や待機児童ゼロをめざした保育所の定員拡大などに活用する「子育て支援・教育の充実」、市内に2駅を新設する「北大阪急行南北線の延伸」などに活用。それ以外にも、寄附者が自由に用途を指定することができる。これまでの事例として、阪急箕面駅周辺の開発や市立図書館の本の充実、市立小学校の音楽備品の整備、交通遺児の支援事業など、多岐に渡る寄附者の希望に添う。平成30年度には、約1億1,000万円の寄附金が寄せられ、そのうち法人や遺贈などの一般寄附を除く約3,200万円がふるさと納税によるものであった。

箕面市は「子育て支援・教育の充実」をはじめ7つの寄附メニュー

ふるさと納税のメリットとして意外と知られていないのが、ふるさと納税の申し込み時に寄附金の使い道を自由に決められることだ。寄附者の「こんな取り組みに使ってほしい」という想いに応え、自治体はその貴重な寄附金をさまざまな施策に活用する。

同市はふるさと納税で寄附をした方に箕面ビールやMISOKA、市内のパティスリー



【みんなの箕面の緑の寄附金】
<https://www.city.minoh.lg.jp/eigyou/hurusatokihikin/menu.html>

によるスイーツセットなど地場産品の返礼品を用意。法律の改正に伴い、この6月1日からは市内在住者への返礼品の送付ができなくなる予定(市外からの寄附に対してはこれまでどおり送付)だが、これを機に、自分の住む街や応援したい自治体のため、寄附金の使い道を選べるふるさと納税制度を利用することで、街づくりへの意識も高まることが期待されている。



【箕面市の取り組み(寄附例)の一例】

【緑豊かな自然環境・良好な住環境の保全】



【保健福祉の充実】



【北大阪急行南北線の延伸】



【市立病院の医療体制の充実】



【消防活動及び救急活動の充実・強化】



【市長おまかせ】



吹田市ではふるさと納税制度を活用してまちづくりの応援を

吹田市でもふるさと納税制度をPRしながら、基金への寄附を募っている。例えば「みんなで支えるまちづくり基金」では、寄附金を活用して市民活動の支援及び活性化を推進している。「音楽ボランティア」、「樹木調査と名札かけ事業」、「年齢・障がいの区別なく健康維持・増進を支援するノルディックウォークのすすめ」、「多文化共生事業」など、介護や子育て、環境といった分野の活動を応援している。



農業を実体験する学習支援事業の様子

培の体験活動を行っている。年間を通じて校庭で活動ができ、足踏み式脱穀機や臼摺り器、クワなどの道具にも触れられ、子どもたちにとって貴重な体験を提供している。その様子は市のWEBサイトで閲覧できる。

各活動とも実際に職員が訪問し、交付金額や活動内容を画像入りで詳細に紹介している。中には次回開催なども記載されているので、寄附をする際の参考にすることができる。

市外からの寄附を増やすために返礼品の充実を

豊中市では現在、寄附金使途として11種類の基金が設定されている。昨年、寄附が多く集まったのは「社会福祉事業基金」だ。

この寄附金は高齢福祉・障害者福祉・児童福祉に関わる施設の整備などに活用されている。その他、「地球温暖化防止基金(チャレンジマイナス70基金)」は、二酸化炭素(CO2)削減につながる省エネの取り組みを進めるために、エコポイント発行事業を行っている。また消防車両・資機材の整備や火災予防・救急普及啓発等の事業を行う「消防・救急救命基金(“守る力”救命力世界一基金)」もある。

また返礼品に関しては、これまで寄附金額に応じて「高校野球発祥の地 記念切手」「高校野球発祥の地 記念ボール」の

2種類のみを用意していた。現在は甲子園で行われている全国高等学校野球選手権大会の前身となる全国中等学校優勝野球大会が初めて開催されたのが豊中のグラウンドだったことから、これらの記念品を返礼品として送付していた。

だが今年、地場産業の活性化につながるような返礼品を選定しなおし、種類も増やす予定だ。理由として、昨年同市のふるさと納税による市民税の控除に伴う税収減が約10億円となったことがあげられる。近隣自治体も魅力的な地場産品を贈呈していることから、同市でも返礼品を充実させることに踏み切った。これによって全国からの寄附額を増やしたい狙いだ。

返礼品の内容については10月以降に市のwebサイトにて発表する予定。もちろん市内在住者からの寄附には返礼品の送付はできない。